



働き方改革は次のステージへ

～創造的なワークスタイルへの進化に挑戦～



藤本 宏文
社長

コロナ禍、私たちの働き方は大きく変容した。九州最大規模の独立系システム会社、(株)シティアスコム(福岡市、藤本宏文社長)は、2017年のMicrosoft 365(MS365)の全面導入を皮切りに、ITを活用した働き方改革を進めている。昨年4月の緊急事態宣言以降は一気にリモートワークを中心とした勤務形態にシフトし、コロナ禍の様々な課題をITにより解決した。今後コミュニケーションの活性化や、働き方の見える化を進めることで、リモートワークはもちろん、働き方改革の次のステージを目指している。

働き方改革の「Next Set」

同社は2017年に働き方改革のインフラとしてMS365を全面導入。さらに、全社員にスマートフォン(iPhone)を配布し、「いつでも、どんな場所でも働くことができる環境」を目指す取り組みを開始した。新しいインフラ導入に際しては、社内の「ワークスタイル(WS)改革チーム」を中心に活用促進を図る。全社横断活動を実施。生産性向上や労働時間短縮、そしてワークライフバランス実現という働き方改

革の目標を着実に実現している。

特にMS365のコラボレーション・プラットフォーム「Teams」の活用促進を重点的に推進し、チャットベースのコミュニケーションスタイルやオンライン会議が社内に浸透・定着化。加えて、19年からはAzure Virtual Desktop(AVD)の社内検証を開始し、社内システムを社外から安全かつ簡単に利用できるインフラの準備を進めていた。

コロナ禍、進化するリモートワーク

昨年4月の緊急事態宣言発出に際し、同社では直ちにAVDを全社展開。当時70%を超える社員の在宅勤務を可能にしたのは、それまでの取り組みが実を結んだものだが、ここからさらに働き方改革に向けた業務改善を一気に加速

する。

在宅勤務が一時的ではなく「ニューノーマル」となる中、WS改革チームでは、その障害となる「紙」と「印鑑」による社内手続きをデジタル化するため「申請書デジタル化」プロジェクトを推進した。MS365のアドオンツール「Next Set」を活用し、社内に残存していた63種類の申請書類を電子化。MS365のローコード開発ツール「Power Apps」で勤怠管理手続きも紙からスマホアプリに移行した。加えて、社内業務をRPA(Robotic Process Automation)で自動化し、効率アップとともに業務の属人化を排除することで、「特定の業務のために、出社しなければいけない」という問題を改善できた。

「働き方の見える化」にも着手

1つ1つ課題をクリアし、業務改善を重ねた結果、同社ではリモートワークが「ニューノーマル」として完全に定着し、今年5月の全社アンケートでは「在宅勤務でも生産性は変わらない、むしろ上がった」という回答が7割を超えた。

一方、直接接する機会の減少

への対応としてオンラインでのコミュニケーション活性化にも積極的に取り組む。部署ごとのオンライン飲み会から約350人が参加する全社忘年会や約30社のビジネスパートナーとの懇親会まで、社内公式行事にもオンライン方式を取り入れた。今後はいわゆる「雑談」を増やし、部署やプロジェクトを越えた横のつながりを醸成する施策も検討中だ。また、個人が自身の働き方を把握するだけでなく、働き過ぎを抑制し、ワークライフバランスを保つことこそが最高のパフォーマンスを引き出す重要なポイントと考え、業務のあらゆる活動ログを組み合わせて、「働き方の見える化」にも着手している。

コロナ禍対応から創造的なワークスタイルへの進化を止めない同社。社内実践のノウハウをもとに、働き方改革のインフラ、MS365導入・定着支援から、いつでも、どんな場所でも、高パフォーマンスを実現するテレワークソリューションまでサービス提供し、様々な企業への導入実績を誇る。働き方改革の次のステージを検討する企業は、同社の事例を聞いてみることをお勧めする。